

## 優秀賞

### 未来への一歩

葛尾村立葛尾中学校 三年 渡辺<sup>わたなべ</sup> さくら

「これはオキアミだね。」

理科の環境授業で、顕微鏡を使い、煮干しの胃の内容物を観察しました。先生に聞いたところ、煮干しの胃の中からオキアミを発見することができました。カタクチイワシが食べたものを見ることができると面白くて、夢中になって観察してしまいました。オキアミは成長段階によって変態し、エビのようなものもあれば、ミジンコのようなものもありました。

集中して観察していると五ミリメートルほどの白い紐状のものがあることに気がつきました。何だろーうと不思議に思い、先生に聞いてみるとプラスチックの可能性があると、すぐにスライドガラスに紐状のものを取り出し、ガスバーナーで加熱しました。すると、すぐに丸まって溶けてしまいま

した。紐状のものがプラスチック片だということがわかりました。こんなに小さいカタクチイワシの身体の中にプラスチックが取り入れられていたことに、驚きを隠せませんでした。それと同時に、プラスチックを食べているということは、他の魚や動物もそれらを食べている可能性があるのではないかと不安な気持ちにもなりました。

このことをきっかけに全校生五人で、「煮干し（カタクチイワシ）の胃の内容物から考える海洋汚染」をテーマに研究を進めることにしました。私たちは、海洋の表層には、密度の低いポリプロピレンやポリエチレン等がゴミとして漂っていると考えました。胃の内容物を水に浮くかどうかでプラスチックの可能性のある物体と他の物体に分類しました。次に、浮いた物体を加熱して、溶けた場合は、プラ

スティックであると判断します。煮干し六袋、九百グラムの胃の内容物を調べました。その結果、プラスチック片四個が見つかりました。白色、緑色、茶色など色は様々で、長さは、四から八ミリメートルの小さなものでした。これが、夏休みに煮干しの胃の内容物を観察した結果でした。

私たちが、使用するプラスチックが、ゴミとして捨てられ、海洋を漂い、カタクチイワシの体内に取り込まれていたのです。ペットボトルは、海底で分解されるまでに、約四百年かかると言われています。この長い年月の間、食物連鎖を通して海洋生物の体内にプラスチックゴミが循環し続けます。未来の海は、プラスチックゴミにより、生態系が崩れ、死の海になってしまうかもしれません。

研究を通して、海洋の生態系を守るためには、私たちの暮らしをプラスチック使用に頼らないものにし、ゴミを減らして海洋汚染の問題を早急に解決しなければなりません。

プラスチックを無くすために自分たちができることを行っていくと決めました。物を買ってもレジ

袋ではなくマイバックを使うこと、マイボトルを持ち歩くことです。それらは、洗って何度でも使えます。このように一回使って捨てるものより、何度でも繰り返し使える物にシフトしていけば、プラスチックゴミが減り、綺麗な海が保てるのではないのでしょうか。そうすれば海に生きる生物も安心して暮らしていけるはずです。ウミガメや海鳥がプラクチックを誤飲してしまうニュースなどを見ると心が痛くなります。プラスチックは消化されず、生物の胃の中に溜まり続けてしまうそうです。そのために満腹状態と錯覚し、餓死してしまうと耳にしました。一人一人の行動が世の中のプラスチックゴミを減らすことに直結していくのです。

海は、世界中の国と繋がっています。世界中の人々と一緒に、エコな生活を心掛けて、美しい未来の海を守っていききたいです。これが、私たち葛尾村立葛尾中学校生五人が発信する、未来への第一歩です。私たちと一緒に美しく安心して暮らせる海を作っていきましょう。